

# 質の高い医療を堅持し、鹿児島県民の期待に答えたい

院長 福永 秀敏

日本の歴史を振り返ってみると、政治や経済の分野のみならず、医療の世界でもこれほど目まぐるしく変化していく時代があっただろうか。アンテナを高くして時代の流れを読み解かないと、自分の立ち位置を失い、その流れの中に奔流されそうになる。思うにその根底には、抗しがたい「グローバリズム」という魔物が潜んでいるような気がする。

来年度から医療供給体制に、大きな変化の兆しが見え始めている。すなわち競争と統合の時代に入ります。このような時代の流れの中で我が南風病院も、鹿児島県の医療界の中でどのような立ち位置を期待されているのか、よくよく考えていかなければならない。幸いにも過去のスタッフが築いてくれた財産で、多くの分野で質の高い医療を堅持しており、県民の信頼も厚い。今後とも鹿児島県民の期待に答えられるような医療を行っていきたくと願っている。

特に高度な先進医療（がんの診断や治療に関して）を県民が鹿児島の地で受けられるようにするにはどのような方法が、必死に考えそして取り組まなければならない時である。病院間の連携を基礎にして、明治維新を成し遂げた先人にならって大義を大切にすることが大事な時だと考えている。

私はこの病院の院長に赴任してまだ時間は浅い。それでも、南風病院が真摯に医療に取り組む素晴らしい集団であるとの印象を強く持っている。まさに先日の研修会で「南風大家族」という言葉で表現されたことは、このような基盤があつてのことだと思う。苦しいときにこそ一致団結できる力がある。このことが、県民の信頼を勝ち得てきた一つの理由ではないかと思っている。

平成26年に開院60年を迎えるが、「人にやさしく あたたく」という理念を一人一人の職員によく浸透させ、南風病院を愛するという帰属意識をより強く持ってほしい。

建物は少し古くなっている部分もあるが改装工事も進んでおり、また東館の新築にもめどがつきそうである。

経営面、そして運営面でも大変難しい問題に直面しているが、職員が心を一つにして一生懸命に取り組むとしたら、乗り越えられない壁ではないと信じている。

これまで以上に、関係各位のご厚意とご支援を心よりお願いしたい。

Nanpuh Hospital